

2025 年 12 月 17 日

関西国際空港 国際貨物地区改修プロジェクト

～Cargo Next→次の 30 年を動かす。～

関西エアポート株式会社は、関西国際空港において国際貨物地区改修プロジェクト「Cargo Next→」を開始することをお知らせします。

本プロジェクトは、関西国際空港の将来に向けた貨物オペレーションのため、貨物施設の拡張・改修、デジタル化の推進・施設の効率的配置、ステークホルダーとの連携強化、労働環境の改善、環境負荷低減に向けた取り組みの推進を検討・実施していくプロジェクトです。関西国際空港は、1994 年の開港から 30 年以上、関係者の皆さまとともに、日本最高品質の医薬品輸送サービスをはじめ、さまざまな貨物輸送の需要に対応してきました。今後のさらなる需要に対応し、将来的な潜在需要を取り込むため、次の 30 年を見据えた貨物上屋のキャパシティ拡張・機能向上・効率化を推進します。

関西エアポートグループは、引き続き関係者の皆さまと連携し、航空貨物オペレーションの将来を考え、貨物取り扱いの効率化、高品質化を進めてまいります。

【目 的】

- 貨物施設の拡張・改修
- デジタル化の推進・施設の効率的配置
- ステークホルダーとの連携強化
- 労働環境の改善
- 環境負荷低減に向けた取り組みの推進

**Cargo
Next→**
次の30年を動かす。

1

上屋面積の拡張/
施設リノベーション

- 段階的投資で上屋面積の最大50%拡張を目指し、まず短期的には5%拡張を実施
- 施設リノベーションも同時に実施検討

2

効率性向上

- DXや自動化技術の導入検討
- エリア内における上屋再配置

3

KIX Cargo
Communityの強化

- 事業環境を取り巻くステークホルダーとの連携強化
- ユーザーフレンドリーなエリアの追求

4

労働環境を大事に

- 貨物地区の通勤・食事環境などの改善
- 「KIXで働きたい気持ち」の醸成

5

持続可能で
エコフレンドリーに

- 電動トラック等の充電設備など脱炭素化の推進
- 水素を活用した環境対策推進

【報道関係の方からのお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
Tel : 072-455-2201



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス株式会社 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

1964 年に設立されたオリックスグループは、法人金融、産業/ICT 機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など、多角的に事業を展開する企業グループです。現在は、世界約 30 カ国・地域において、約 34,000 人の役職員により事業を展開しています。

オリックスグループの社会における存在意義は、「世の中がよりよい方向に進むきっかけとなる、“未来をひらくインパクト”をもたらすこと」です。この Purpose を軸に、グローバルで一体となり、社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、14 カ国において 70 以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で 2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016 年から他の空港運営事業者と先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、NTT 西日本株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ 銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

Cargo Next→次の30年を動かす。 概要

2025年12月17日



PROJECT STATEMENT

Cargo Next→

次の30年を動かす。

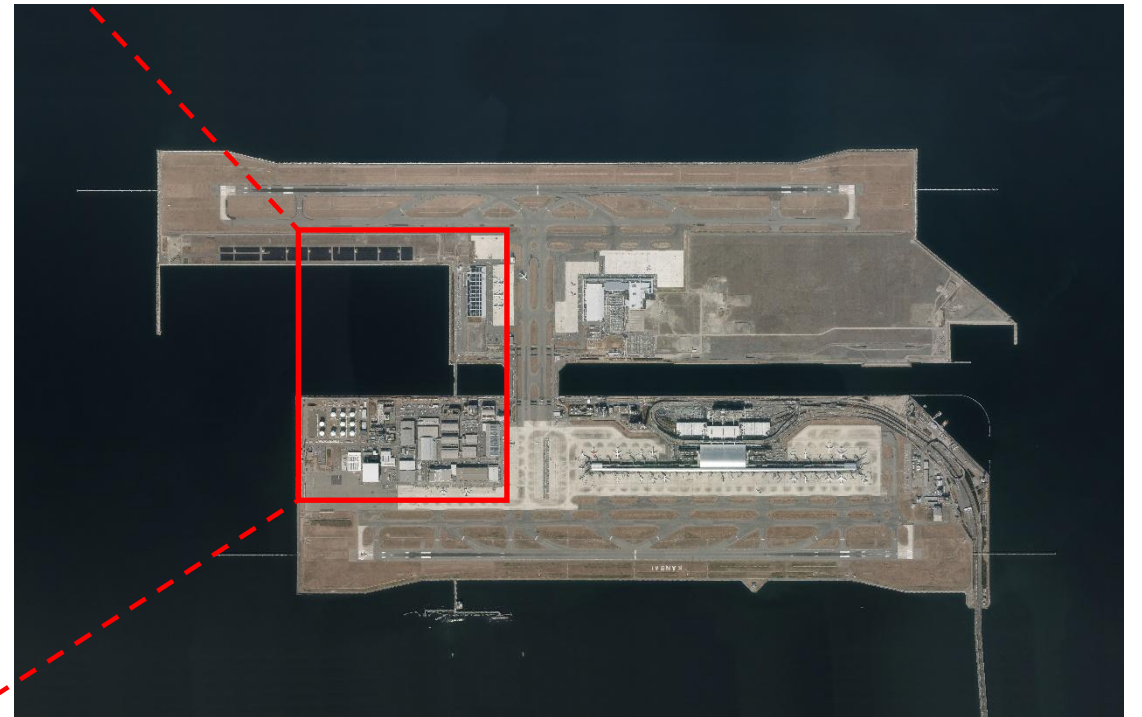
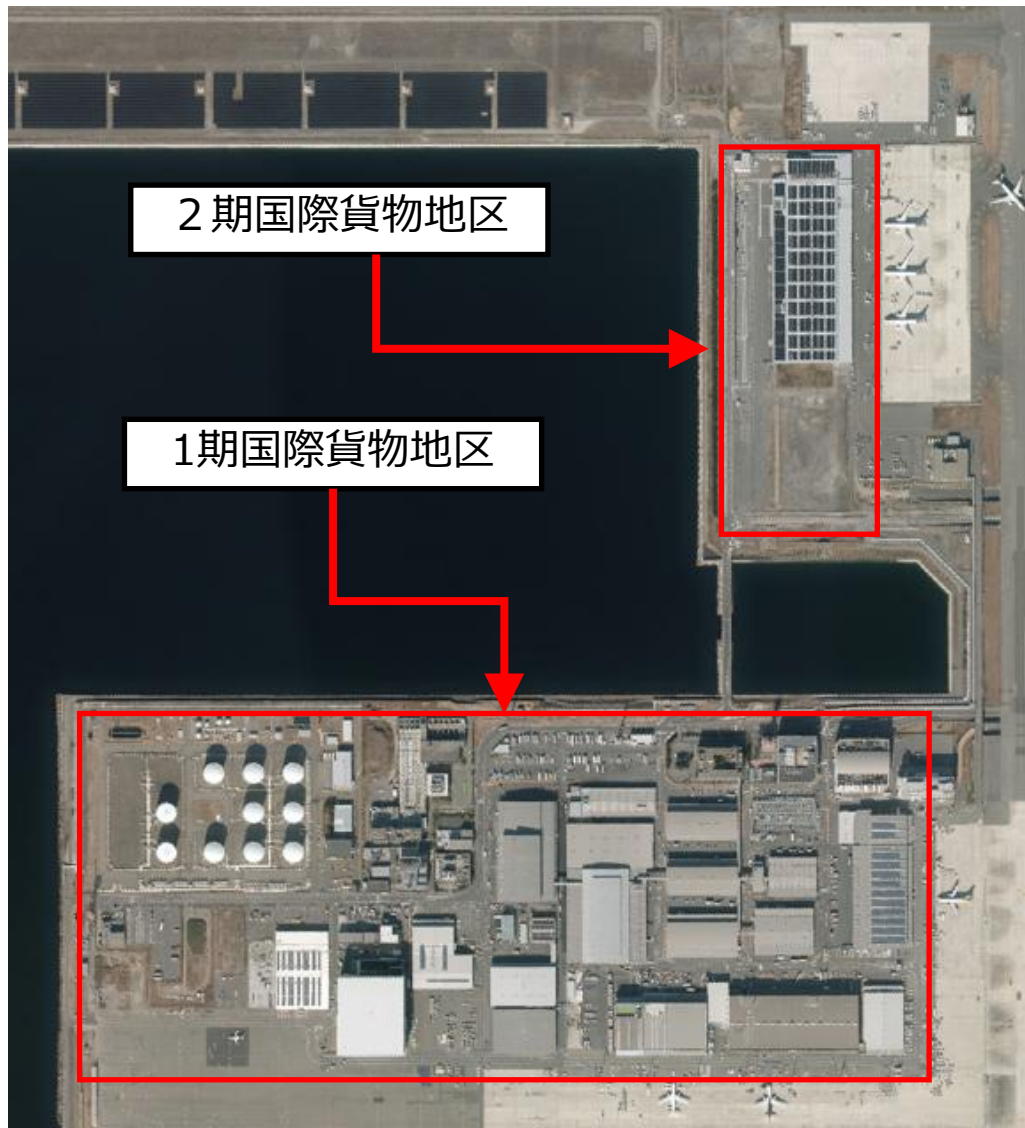
「動かせ、未来の物流。」

関西国際空港は1994年の開港以来、31年の歴史を刻んできました。

そして今、私たちは次の30年を見据え、貨物地区への投資を加速します。

関西空港をご利用いただくステークホルダーの皆様とともに魅力ある貨物地区をつくっていきます。

国際貨物地区の位置図



関西国際空港全体図

KIX貨物事業の現状とチャレンジ

01 関西の貨物のKIX利用は限定的

現状では関西で発生する貨物の約60%しか取込みにできていない。残りの約40%が潜在的需要と考えられ、この需要を取り込むことがKIXのビジネス成長の機会。KIXの地理的優位性を活かし、西日本の貨物の更なる取り込みを狙う。

02 貨物マーケットは成長と変化が加速

高齢化や生活様式の変化に伴い、医薬品市場やEコマース市場は今後さらに拡大する見込み。
今後変化し得る貨物マーケットに対し、柔軟で迅速な対応が求められる。

03 貨物上屋はほぼ満床

現在、貨物上屋はほぼ満床。
将来的に貨物上屋キャパシティを拡張することで、更なる潜在的需要の取り込みを狙う。

04 貨物施設は老朽化

開港以来の施設は築30年以上に差し掛かり、老朽化が進行。現代のトレンドに合わせた施設ヘリノベーションするとともに、労働環境改善に寄与する施設へ機能向上させる。

KIXの貨物戦略 10-15年の優先事項

01

西日本の航空貨物ゲートウェイを実現

貨物ステークホルダーと戦略的に事業提携し、貨物の集約を図る



02

医薬品輸送において日本で最高品質のサービスを提供

KIX Medicaの機能強化

航空機から上屋まで一貫したクールチェーンを実現



03

主要市場でのポジションを強固に

加速するEコマース需要をとらえた事業展開

フライトネットワークの充実により、多岐にわたる航空貨物需要に対応



貨物戦略の実現のために 5つの柱

1

上屋面積の拡張／ 施設リノベーション

- 段階的投資で上屋面積の最大50%拡張を目指し、まず短期的には5%拡張を実施
- 施設リノベーションも同時に実施検討

2

効率性向上

- DXや自動化技術の導入検討
- エリア内における上屋再配置

3

KIX Cargo Communityの強化

- 事業環境を取り巻くステークホルダーとの連携強化
- ユーザーフレンドリーなエリアの追求

4

労働環境を大事に

- 貨物地区の通勤・食事環境などの改善
- 「KIXで働きたい気持ち」の醸成

5

持続可能で エコフレンドリーに

- 電動トラック等の充電設備など脱炭素化の推進
- 水素を活用した環境対策推進